

八丈島 水産だより

5月号
2019年



アシタバ畑



5月に入って徐々に気温が上がり、少しずつ初夏を感じられるようになってきました。旬のアシタバの緑も美しく映え、見ても食べてもおいしい季節です。

また、ゴールデンウィーク後半の5月3日～5日には第13回八丈祭が開催され、多くの人々で賑わいました。新しい令和の時代を担う子供たちがステージで元気に踊りなどを披露していました。

さいきん りょうもよう

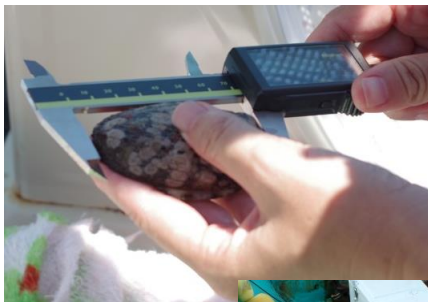
■ 最近の漁模様

1月～4月の漁獲量は、キンメダイ、メダイ、カツオ、マグロ等多くの魚種において昨年よりも少なくなりました。これらの魚は八丈島の漁業において重要な漁獲物です。出漁日が増えるこれからの季節に期待しましょう。また3月から始まったトビウオ漁も、4月をピークに漁獲量が減ってきており、漁の終わりが近づいています。春とびを食べるならお早めに！



さかな と ふせ

■ 魚の獲りすぎを防ぐために



←フクトコブシは制限サイズより大きいものが水揚げされる。



→東京都ではキンメダイ漁は日中のみ行われる。

漁業で獲られる魚の多くは、種をまいて育てる農作物と違い、野生の生物です。したがって、たくさん獲れるからといって獲りすぎてしまうと、海から魚が減ってしまいます。これを「乱獲」といいます。乱獲を防ぐためには水揚げするサイズを制限したり、禁漁期を設けたりと、漁業や獲る魚の種類ごとに対策をとらなければなりません。

将来にわたって漁業を続けるために、漁業者さんや漁協は様々な努力をしています。